

ベストクラス選定理由書

作成者：筒井茂喜

科目名称 道徳教育諸理論と道徳の授業づくり (担当教員名：谷田増幸、淀澤勝治)	
課程：大学院（専門職）	開講時期：前期
授業形態：講義・演習	授業規模：22人
インタビュー対象教員名 谷田増幸 (実施日時：平成30年7月31日, 9:10-10:20 ; 実施場所：言語棟 526)	
インタビュー対象受講者名 高嶋拓也 (実施日時：平成30年9月20日, 10:40-11:30 ; 実施場所：体育棟 109)	
選定理由 本講義は、専門職学位課程の主に小学校教員養成特別コースの学生を対象とした専門科目であり、前期集中講義である。3日間の集中講義は前半(1.5日)を道徳教育に関する理論について、後半(1.5日)を授業づくり(模擬授業を中心に)という構成となっている。 具体的には以下に示す内容となっている。 (1) 歴史的視点から道徳教育の変遷を辿ることで道徳教育が生まれた背景、また、社会状況等の変化によって、その目的・内容がどのように変わってきたのか。などの学修を通して、道徳教育とは何か。その枠組みを捉える。 (2) (1)の上に立ち、現在そしてこれからの道徳教育のめざすところとその教育内容について学習指導要領を紐解くことで学修する。 (3) 指導案づくり。小・中学校の道徳教材のうち、典型教材(代表的教材)を対象に指導案を作成する。作成する際に、これまでの学生の指導案を提示し、授業イメージの具体化を促す。 (4) (3)で作成した指導案をもとに模擬授業を実施する。 本講義が評価された主な要因として2つ挙げることができる。一つは、今現在、道徳教育の変革期を迎えていることに配慮した内容になっていること、そしてもう一つは、現場経験のない小学校教員養成特別コースの学生に配慮した内容になっていることの2点である。 すなわち、道徳教育(戦前の修身を含め)は、その時々社会・政治状況によって、その目的・内容が変化してきた歴史がある。このような中、教員に求められるものは、常に「道徳教育とは何か。」「道徳教育のめざすところは?」という「問い」を持ち続けていく姿勢といえる。この姿勢を培うために、道徳教育の歴史的変遷を辿る講義内容は学生に「道徳教育の本質」を考えさせる契機となるであろう。 また、道徳の典型教材(代表的教材)は、「主人公の道徳的变化」が読み手によくわかる構成になっていることから、道徳の授業経験のない学生にも教材づくりの視点を得やすく、「主発問の設定」のしやすさにつながる。同時に、「教材の捉え方」「中心発問」「中心場面」「指導過程」という授業の柱を考える上での手掛かりとなるであろう。実際、学生は「主人公の変化がわかりやすい教材だったので、指導案づくりの際の視点がぶれなかった。」と答えており、教員のねらいが学生の学びを深めているといえる。 さらに、模擬授業の実施により、想定通りにいかなかったところを討論する学修は、「中心発問」の是非などを具体的に考えることができるであろう。この点について、学生は「互いの模擬授業を見合うことで、それぞれの工夫点がよくわかって、道徳の授業イメージがより具体的になった。」と評価しており、道徳の授業経験のない学生にとっては、自分が教壇に立った時をイメージしながら道徳の授業を考えることができ学びを深めたと考える。 以上の理由から、本講義をベストクラスとして推薦します。	